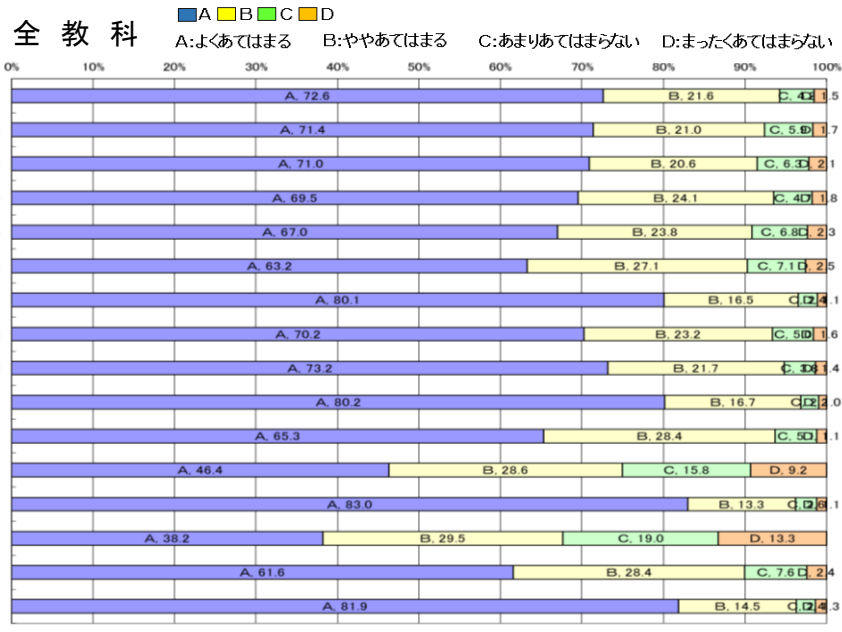


項目
1 授業の進度はちょうどよい。
2 先生の話し方は、明確で聞き取りやすい。
3 黒板の文字は見やすく、要点が分かりやすい。
4 授業中（実験・実習・実技中を含む）に必要なに応じて適切なアドバイスをしている。
5 生徒によく質問している。
6 授業内容に興味・関心が持てるような工夫をしている。
7 授業の始まりと終わりの時間を守っている。
8 寝ている生徒や私語をしている生徒を注意している。
9 授業内容や試験問題の難易度、成績の評価は納得できる。
10 教材（体操服・実習服を含む）の準備をして授業の始まりをまっている。
11 居眠り・私語などをせず、先生の説明をよく聞いている。
12 授業中のわからないところは質問している。
13 授業中ノートを取っている。
14 予習・復習をしている。
15 自ら進んで授業（実験・実習・実技）に取り組んでいる。
16 課題を期限までに提出している。



	評価できる、達成できているところ	不十分な点とその具体的な改善の方法
国語	授業の進度は、それぞれの科・コースの年間学習プログラムに基づき進めることができている。内容に関しても生徒が興味関心が持て必要な工夫を行うことができている。	各科、コースにおいて生徒への問いかけが不十分なようである。授業スタイルが教師から生徒に対する一方通行の講義形式にならないように生徒が自らの考えに基づき、他の生徒との対話の中で自分の考えをさらに深めていける授業ができるように、授業研究を重ねて行きたい。
社会	各項目においてA評価70%、A・B合計の評価は90%程度の高評価を受けていることから、生徒は概ね満足していると考えられる。特に「授業の始まりと終わりの時間を守っている」という点に関しては評価が高い。	各項目とも高評価であるが、さらに生徒の満足度を上げるために、「授業内容に興味・関心が持てるような工夫をしている」という項目を改善したい。今までも、視聴覚教材を使用したり、興味の内容を取り入れ授業を展開してきたが、今後は、電子黒板等を活用し、生徒が自ら課題を発見し、主体的に考える展開の授業を目指したい。
数学	授業の始まりと終わりの時間を守っている部分の評価が高かった。また、昨年は板書の見やすさに対する評価が一部の科・コースで低かったため、各教員が個々に工夫に努めた結果、評価が向上した。	「授業内容に興味、関心が持てるような工夫をおこなっているか。」という点の評価が低く、その改善が今後の課題となっている。電子黒板が導入されたため、数学科全教師が上手に活用し、興味を持つ授業ができるように中堅以上の教師が若手教師の見本となるように努めたい。
理科	ほとんどの項目においてA評価で50%超え、A・B合計の評価は90%を超えており、数年前に比べると評価が向上している。教員の努力の結果、「興味関心が持てるような工夫をしている」という項目が特に向上している。	「興味関心が持てるような工夫をしている」という項目は向上しているが、まだまだ改善すべき余地を残している。実験は準備などに時間がかかるが生徒が理科に興味関心を持つ効果的な取り組みであるため、教員が相互に協力するとともに、ICT機器を積極的に活用し実験を行う時間がとれるように創意工夫を行っていききたい。
英語	ほぼ全ての項目でA・B評価が90%を超えており、生徒にとって満足のいく授業ができていると思われる。これに甘んじることなく、生徒により一層良い授業が提供できるよう、個々の教員が研鑽を積んでいきたい。	「興味・関心が持てるような工夫」の項目の改善が永遠のテーマであったが、ICT環境が整備され、またそれを活用しようとする教員が多いので、次回からは高評価が期待できる。それぞれの教員が、機械に使われるのではなく、機械をうまく使いこなせるようスキルアップを図りたい。
体育	「先生の話し方は、明確で聞き取りやすい」の項目は、体育教師としての資質であること、「授業の始まりと終わりの時間を守っている」の項目には保健体育科として取り組んできたことであるので、高評価であったことは、喜ばしい限りである。	「生徒によく質問している。」「授業のわからないところは質問している。」の互いに呼応している項目が全体的に低い評価となっている。改善策としては、先日、研究授業で行われたような、ICT機器を導入した授業を展開し、「運動の実践→フィードバック」という流れを授業に組み込むことで、生徒が質問する機会を増やし、教員側も問題提起を行う機会を増やしたい。
芸術	芸術科目はその特性上、高い評価が出ていると考える。音楽は音との一体感、書道は作品として形が残ること、目や耳などの五感を活用し出来ることの喜びを直接感じられる科目である。自身の充実を図れば必然的に高評価に繋がる。	「授業の始まりと終わりの時間」に関しては、移動教室のために守っていないところがある。今後は時間を守ることを大切さも授業の中で学ばせたい。芸術教科は、情操的な部分の教育が出来て芸術科の役目を果たさせるため生徒の感受性を高める授業を目指し、今後取り組んでいきたい。また、生徒の主体性が発揮出来るような授業展開を心掛けていきたい。
家庭	家庭科は学ぶ分野が広く、各分野に割り当てられた時間数に差があり、授業中の進行が速くなりがちと感じていた。しかし、授業評価の項目1を確認したところ、比較的高い評価を受けていたため、今のペースでわかりやすい授業を実践していきたい。	授業中の私語・居眠り等の点で、注意等の指導が十分できていないとの評価があった。注意を行うことで授業の中断になることを避けようとしたことが原因で、指導が行き届かなかった。しかし、指導が行き届かなかったことは、他の生徒が授業を受けることの妨げになるとともに、本人の学習に差し障りが出るため、今後はその点について根気強く指導をおこないたい。
情報	各パソコン画面に映像を配信しており、「黒板の文字は見やすく要点が分かりやすい」の評価が高い。「授業の始まりと終わりの時間を守っている」の評価はパソコン教室への移動が必要であるが、早めに教室を開けて待っている効果が出ている。	「生徒によく質問をしている」の項目では、評価Aが52%、評価Bが35%と他の項目に比べると低く、普段から質問をするように心がけて授業をする必要があることが分かる。情報の発信は生きていく上で必要なスキルなので、授業外でも課題に取り組ませる環境を整備しなければならない。2年次の総合学習でのプレゼンテーションに繋がるように指導していく。
商業	授業の進度は、ちょうどよいという評価になっている。また、授業の始まりと終わりの時間を守っているという項目でも高い評価を得ている。授業内容や試験問題の難易度、成績の評価は、多くの生徒が納得できている。	「生徒によく質問している。」「授業内容に興味・関心がもてるような工夫をしている。」の項目が不十分な点である。改善方法として、教科書以外の内容を他の教材から探して、生徒が興味を持つ教材作りをすることが必要である。また、教師が授業の中心になりすぎず、生徒が自ら考えて行動に移すことのできるような、発問を行う工夫が必要である。
福祉	居眠りをしてしまった生徒には必ず起こすようにしているため、生徒の自己評価でも、「居眠り、私語などをせず、先生の説明をよく聞いている」評価が高く、生徒自身が福祉に興味を持ち意欲があることが現れている。授業のノートを取ることが習慣化されている。	福祉の歴史や法律関係などの知識面の学習になると、生徒の興味関心が低下する傾向がみられる。今後は、ICTを活用し、生徒がこういった分野にも興味関心を持てるような授業展開を進めていきたい。
看護	生徒の基本的な学習姿勢については、学習準備やノートをとること、課題を期限までに提出するなどの評価が良好であり、真面目に取り組んでいる。全般的に前年と同様の評価である。	積極的な授業への取り組みを示す「予習復習をすること」や「わからないことを質問する」という項目にCDが4割以上いることや、主体的姿勢を示す「自ら進んで授業に取り組んでいる」にCDが1割程みられる。生徒が授業に興味を持ち、分かりやすくするために図や表を電子黒板に提示しポイントを分かりやすくし、生徒が学習内容を発表する場を増やしたい。

生徒のみなさんご協力ありがとうございました。先生方、集計・結果の分析ご苦労様でした。

この調査を今後の授業の改善に繋げていきます。

尽誠学園高等学校教務部

